

学校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

在籍生徒数は、3年生11人、2年生11人、1年生13人の合計35人です。ここ数年入学してくる生徒は少ないですが、個々の生徒に応じた丁寧な指導を心掛けています。

校舎は、昭和28年に建てられた旧稲庭中学校の木造校舎を活用しているため老朽化が著しく、風情はあるものの安全管理上心配しています。特に、昨年度の大雪や地震に対しては気を使いましたが余震が続いている現状もあり、このような状況が続くと、生徒の安全面で心配です。

旧稲川町、旧皆瀬村の強いバックアップによって支えられ存続してきましたが、合併して湯沢市となり、昨今の厳しい財政事情からこれまでのような特別な支援は望めません。

今後、校舎の問題も含めて、分校としてどのように特色を出していくかが最大の課題です。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

地域の小・中学生が減少していく中で、分校の生徒数減少は避けられません。入学してくる生徒が減少し在校生も減っていく中で、特色ある教育活動を展開するのは難しいと思われます。また、何と云っても、老朽木造校舎の件は早急に解決しなければなりません。新築は望めないでしょうから、現実的には、将来、統合された学校の校舎を活用することになるのでしょうか。稲川分校の校舎は、歴史館（稲庭うどんと川連漆器等）のようなものとして、湯沢市で保存したらよいのではという意見も地元にはあるようです。

いずれ、かつて分校ができた時代とは大きく状況が変わってきています。

③ 目指す方向性や学校像

生徒の進路は多様ですが、個々の生徒の進路希望を達成させることが、学校としての最大の使命です。したがって、一人ひとりの生徒の進路希望に応じた丁寧な指導を、これからも実践していきます。特に、地元企業への就職を希望する生徒に対しては、地元企業との連携を密にし、インターンシップなどを通して生徒に社会性や協調性を育てていきます。

また、分校生活の中で、社会人となるための様々な素養を身につけさせ、社会に出てからも自らの意志と判断力で行動できる人間を育成します。

④ 5年間で達成を目指す具体的目標

地元企業との連携の下に、毎年、地元企業に就職する生徒を輩出します。また、どのような進路に進んでも、社会の中で他人から信頼され逞しく生きていける人間となるよう、一人ひとりの生徒をしっかりと育てます。

具体的な取り組み等

- 1 一人ひとりの進路希望に応じた、より丁寧な指導をします。
 - ・英検、漢検などの各種資格取得に向けて積極的に挑戦させます。



- 2 地元企業に就職する生徒を育てます。場合によっては地場産業の担い手、職人を輩出します。
長期のインターンシップ等により、地元企業との連携を強化し、毎年、地元企業に就職する生徒を育てます。また、この地域には、わずか30kmの間に、林檎・発酵食品（増田）、漆器・沈金（川連）、牛肉（三梨）、稲庭うどん（稲庭）等、全国に名の通った産業があり、職人が必要です。湯沢市郊外には、日本酒や木工関係のブランド企業もあります。
企業が、県外や国外まで市場を開拓することが条件とはなりませんが、後継者としての職人育成は必要かと思えます。

